

開催趣旨

水辺の自然再生共同 WEB シンポジウム 実行委員長 高橋清孝

1 経緯

2007 年以来、多くの方々のご協力を得ながら、水辺の自然再生共同シンポジウムを東京と宮城県大崎市の会場で開催してきました。自然再生活動に関連する情報と意見交換が主な目的で、内容は活動紹介、新技術の紹介、研究報告、制度や法律の紹介など多岐にわたっています。この中から先駆的な報告をとりまとめ、5 年に一冊のペースで新刊本も発刊しています。

今年度はコロナ新型コロナウイルス対策のため、3 年続けての WEB 開催となりました。過去 2 年の WEB シンポジウムでは、多彩な講師の方々充実した講演に支えられ無事開催することができ

ました。3 週間のシンポジウム開催期間に YouTube で講演動画を配信し、全国の多様な方々に視聴していただくことができました。講師の方々の自然再生への熱い思いを、広く発信できたと思います。

2 テーマについて

本シンポジウムでは水辺の「激変する水辺の原風景」と「侵略的外来種」を取り上げ、現状と対策について語り合います。

(1) 激変した水辺の原風景

日本の人口は 20 世紀の 100 年間に約 3 倍に急増し、これに伴い原風景は大きく変貌しました。水辺の原風景は農地整備を含む開発、農薬使用、外来種の侵入などにより激変し、今後は離農が拡大しさらに拍車がかかる恐れがあります。

本シンポジウムでは、ご講演いただいた内容を基に、自然と共生した 70～100 年前の原風景を原点として、現在の変貌した姿に至った過程や問題点を共有できればと思います。今後は、これらの知見を参考にして現場の活動を継続しながら、残すべき自然を維持し復元するための手法や体制を検討し、提言してい



よみがえったタガイ(上)とゼニタナゴ(下)
アメリカザリガニ防除ため池、タガイ:2021年6月
12日、ゼニタナゴ2021年10月10日(秦氏撮影)

きたいと考えています。

(2) 水辺の侵略的外来種

第3部では、侵略的外来種の対策を中心に発表し議論します。10～20年前はブラックバス対策が主課題でしたが、近年は多くの外来種の侵入と被害が報告され、多様な対策が求められています。水中では、複数の外来種が相互に激しく競争しながら生育しています。今や、単一魚種の防除では十分な成果を上げることができず、複数種を対象とした総合的防除を検討する段階に入っていると考えられます。

主題のアメリカザリガニについては、5月に外来生物法改正法案が国会で可決され、来年度、特定外来種に指定される方向で準備が進められています。第3部でアメリカザリガニの被害の実態や対策などを報告していただきます。総合討論では、効果的な対策を進めるための意見交換を行い、さらに、法制度についても要望や意見を出して議論したいと思えます。

3 減少原因を克服するために

原風景と現実の風景はギャップが大きく、この原因、すなわち、生き物たちの減少原因は多岐にわたります。原因のそれぞれに、改善すべき課題が多くあります。本シンポジウムでは可能な限り、それらの課題と取り組んでおり、毎年、ポスターセッションや展示コーナーで多くの講師から、ご紹介いただいています。今回も、第2部のバーチャルコーナーで、現在、話題になっているアメリカザリガニとウチダザリガニやブラックバス問題、さらに、里山の水辺の生き物たちの研究や保全の取組について動画や写真を使って紹介していただきました。

4 WEB シンポにおける情報と意見の交換について

講演動画を多くの方々に視聴していただくため、3週間にわたってURLとYouTubeに掲載します。最初の1週間、遅くとも11月1日までに一般の方々から質問を受け付けます。各講師から、主要な質問に対し、ご回答をいただくことになっています。

また、これらを踏まえて、2週目の11月5日に総合討論を開催し、討論を録画した動画を11月6日～14日まで掲載します。さらに、後日、講演要旨集をシナイモツゴ郷の会のURLに掲載予定です。内容が多岐にわたり、量的にも多いので、シンポジウム終了後1年間、継続して掲載予定です。自由に何度もアクセスして、ご視聴いただければ幸いです。

5 謝辞

ご支援いただいた多くの機関と個人の方々に心から感謝申し上げます。お忙しい中、講演動画を作成いただいた講師の方々、本当にありがとうございます。ありがとうございました。